

from JARA



2009年新しい年度が始まりました。日本ラケットボール協会は、1980年11月に設立されましたので、来年2010年には30周年の節目を迎えます。

振り返れば、米国で爆発的に普及し始めたラケットボールを目の当たりにした時(1973年)の興奮を忘れることができません。しばらくたって、日本でラケットボールと再会し、また『コート壁を突き抜ければかりに打ち合い、ボールが風を切って飛ぶ体感』が蘇りました。

全盛期には全国に130クラブ300コート以上も普及し、各地のクラブメンバー同士の交流も盛んに行われていました。勿論、全日本選手権・ジャパンオープン大会も現在の2倍近くの参加者がいました。

しかし、ラケットボールは今、打ち続く不況の影響もあり、スポーツクラブの減少やコート数の低減、用途変更などに伴い、RB体験人口そのものの目減りに始まり、JARA会員や大会参加者の減少が続ぎ、協会収入も残念ながら漸減し続けています。日本のラケットボール存続の危機…と言えるかも知れません。これまでも熱いラケットボーラーや多くの支援者に支えられてきましたが、来たる30周年に向けて“もう一度ラケットボールの再生”に私自身かけてみたいと思っています。

日本からラケットボールの世界チャンピオンを！ ジュニアからしっかり育てるクラブの育成！ 自分達の手で運営・管理できるコートの確保をめざして“ラケットボールの再生”をテーマに皆さんにも熱い想いと、手と、アイデアをお貸し頂きたいのです。

日本ラケットボール協会は、皆様の力を必要としています。皆様のボランティアが、ラケットボールを再生させます。ぜひお力を、手をお貸してください。

もう一度私から宣言します。ジュニアを育てましょう。ジュニアプレーヤーを世界に送りましょう。ラケットボールコートを創りましょう。熱い想いをもち続けることで、全日本選手権、世界選手権が開催できるコートを創りましょう。そして、みんなが楽しめるラケットボール環境作りを進めます。

皆様のお力をお貸してください。私たちが愛するラケットボールへの熱き想いを、燃やし続けましょう。

日本ラケットボール協会30周年に向けて、この目標に一步でも近づけるよう日本ラケットボール協会を代表しご挨拶申し上げます。

2009年4月吉日

日本ラケットボール協会 理事長 柳 敏晴

Racquetball for Everyone